

第6回宇宙での物理科学に関する国際シンポジウムおよび宇宙および地上応用を目指した二相システムに関する国際会議の合同コンファレンス

(The Joint Conference of 6th International Symposium on Physical Sciences in Space and 10th International Conference on Two-Phase Systems for Space and Ground Applications)

開催期間：2015年9月14～18日

開催場所：同志社大学 室町キャンパス

主催：日本マイクロ重力学会、宇宙航空研究開発機構、ITTW組織委員会

共催：International Microgravity Strategic Planning Group、同志社大学

支援：公益財団法人宇宙科学振興会、一般財団法人ワンアース、他

代表：石川正道（日本マイクロ重力学会会長）

本国際合同コンファレンスは、宇宙環境を利用した物理科学に関する学術国際シンポジウム（ISPS-6）と宇宙および地上応用を目指した二相システムに関する国際会議（ITTW2015）の二つの会議であり、秋の訪れを感じる9月中旬の一週間、京都にて開催されました。

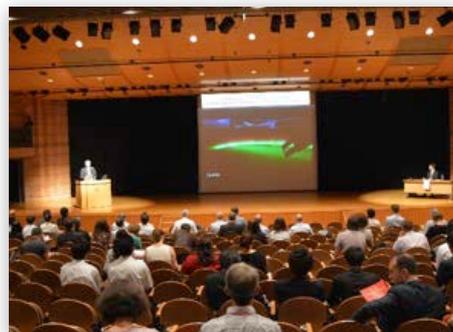
250名を超す参加者があり、そのうち45%は海外からで、アジア、米国、欧州、南米、アフリカなど20カ国から参集いただきました。理学、工学、生命科学、教育など多分野にわたる研究者が、宇宙環境利用のキーワードのもとに参加し、国際宇宙ステーションや衛星、観測ロケット、パラボリックフライト、落下塔など多様な手段により得られた研究成果や今後の計画などが報告され、活発な質疑応答が行われました。また、本コンファレンスでは Agency Talk および Society Talk、各専門分野で顕著な成果の報告としてプレナリセッションが生まれ、各宇宙機関の状況と将来の方向性が示されるとともに、コミュニティ学会として向かうべき方向性が打ちだされ、成果報告と共に熱心な討論が繰り広げられました。プレナリセッションの後には、分野別に6つのパラレルセッションにより専門的かつ深い内容の発表と議論がなされました。口頭発表197件、ポスター発表72件の269件の発表件数となりました。学生ポスターは日本未来科学館館長（宇宙飛行士）毛利衛氏による全発表の研究成果の聴取・質疑応答が行われ、学生は緊張しながらも熱心に説明していました。このポスター発表は毛利氏を含め複数の審査員による評価が行われ、ポスター賞が授与されました。

宇宙実験は研究者間の協力により実施され成果を共有しながら科学的、工学的成果を創出し、科学技術の進展に貢献していきます。今回の会議でも、会場のあちらこちらでアドホック会議が開催され、共同研究についての積極的な対話が行われていました。

京都の土地柄もあり、日本の文化に包まれながら和やかに会議が進行し、参加者全員が国際的な親交を深めながら科学研究だけにとどまらず、人文社会学の知識の深化とともに、成功裏に会議を締めくくることができました。宇宙科学振興会からの助成金は、本国際会議の開催経費の一部として活用させていただき、有意義な会議が開催できました。助成いただきましたこと感謝申し上げます。



全体集合写真



Plenary Lecture



学生ポスターセッションの様子



毛利宇宙飛行士による談話風景